

8・6ヒロシマで何が起きようとしているのか

平和公園での表現規制を考える

7・21集会アピール

79年前の8月6日午前8時15分、晴れあがった広島の上空に現れた米軍機が投下した1発の原子爆弾は14万人の命を残忍に奪いました。3日後の9日には長崎に投下された原爆で7万人が亡くなりました。人間に初めて使われた核兵器による大虐殺です。生き残った人々も放射線の後遺障害や生活苦などで人生を狂わされ、多大の苦しみを味わいました。

8月6日は原爆の犠牲になった人々を追悼し、その無念の思いを忘れず、犠牲者が一番願ったこと、核兵器が三たび使われないよう核兵器の廃絶と戦争のない世界の実現を誓う日ではないでしょうか。

今、世界ではロシアのプーチン大統領やイスラエルの閣僚らが核兵器使用を公言するなど核戦争の危機がかつてなく高まっています。ウクライナやガザでは子どもを含む多数の市民が殺されています。今年の8月6日はこれまでもまして被爆地ヒロシマから「NO NUKES」「NO WAR」の声を世界に訴えていかなければなりません。

今年8月6日の平和記念式典で広島市は平和公園の全域に入園規制をかけようとしています。これまで式典会場ではなかった公園北側や元安川対岸の原爆ドーム区域も「式典会場」に含めて、「安全対策の強化」を理由に午前5時から9時まで手荷物検査を受けて許可されないと入れなくなります。ゼッケン、たすきの着用やプラカード、のぼり、横断幕、ビラの持ち込みは禁止されます。

平和式典で発言できる人は限られています。出席者も限られています。

例年、海外も含め広島市内外の多くの市民が8月6日8時15分を中心に原爆ドームや平和公園のあちこちで犠牲者を追悼し、「核兵器廃絶」「戦争のない世界」をさまざまな表現で世界に訴えています。

今回の市の規制はそうした市民の表現の機会を奪うものであり、憲法の保障する「言論・表現の自由」の封殺です。民主主義の根幹である言論・表現の自由がない社会の行きつく先がアジア太平洋戦争であり、原爆投下であったことを思い起こしてください。8月6日のヒロシマの核心的時間・空間でそのような暴挙が行われることを見過ごすことはできません。

私たちは今回の平和公園の入園規制の撤回を求めます。

2024年7月21日

7・21集会 参加者一同